竹田城跡 発掘調査　現地説明会資料

平成18年9月8日(金)
朝 来 市 教 育 委 員 会

１、はじめに

一昨年の台風 23 号は、竹田城跡の周辺にも甚大な被害をもたらせました。法樹寺のすぐ裏には居館跡と考えられる平坦地があり、竹田城と同じ穴太積みによる石垣が確認されていましたが、その石垣の一部も崩れてしまいました。市教育委員会では、竹田城の居館跡についての資料を収集し、国史跡の指定範囲拡大に向けての基礎データを得るため、地権者のご好意により、平成 18 年度から国庫補助を受けて発掘調査を行なっています。

２、調査の成果

今回は、南北方向の試掘トレンチを２本、Ｌ字状の試掘トレンチを１本設定して調査を行いました。

【１トレンチ】いちばん西側に設定したトレンチです。江戸時代以降の陶磁器類が出土しましたが、遺構は確認されませんでした。

【２トレンチ】真ん中の平坦地に設定したトレンチで、溝・落込み・土坑・ピットなどを検出しました。トレンチの南は緩やかな落込みがあり、遺構はそれより北側で確認しました。そのうち、約 4mの間隔で並ぶ大きさ 0.8mの土坑を６基確認しました。間隔の広さから建物の柱穴とは考えられず、性格は不明です。その他、時期が明確にわかる遺構は確認できませんでした。出土した陶磁器の中には中国から輸入された碗や丹波焼の擂鉢などの 16 世紀後半、竹田城の石垣が築かれたのと同じ時期のものを含んでいます。他には、古墳時代～奈良時代の土器も混じっています。

【３トレンチ】いちばん東、法樹寺に近い平坦地に設定したＬ字状のトレンチです。南側を３－Ｓトレンチ、東側を３－Ｅトレンチとしています。石垣・土坑・ピットなどを確認しています。そのうち、３－Ｓトレンチで石垣を検出しました。この石垣はもともと、現在残っている南側の石垣につながるものと思われ、石の積み方が竹田城の石垣と同じです。石垣の外側（東側）からは、土師器の皿がまとまって出土しました。他に備前焼の擂鉢、瀬戸・美濃焼の皿、中国から輸入された碗をはじめとする陶磁器類（16～17 世紀)、下層からは古墳時代～奈良時代の須恵器が出土しています。また、時期は不明ですが、小規模な鍛冶を行なっていたようでスラグ（鉱滓、ノロ）や炭が出土しています。石垣以外の遺構では、ピットの中に建物の礎石と思われるものもいくつか確認しています。

３、まとめ

以上のように今回の調査では、はっきりとした建物の跡を確認することはできません

でした。しかしながら、新たに石垣を検出することができました。石の積み方はいわゆる穴太積みでつくられており、竹田城の石垣と同じものです。注目されるのは、土師器の皿がまとまって出土したことで、16～17 世紀の土器を考える上で非常に貴重な資料になり得るものです。

来年以降は、北側の地区を予定しています。今回の調査区よりも、台風災害の流入土や客土は少ないと考えられるので、より大きな成果が期待されます。

【３トレンチ】確認した石垣と土器の出土状況

【３トレンチ】土器の出土状況（土師器の皿）